

## 平成 30 年度トピックス

### ☆平成 30 年 11 月 21 日:内閣府特命担当大臣表彰

#### 「未来をつくる若者オブ・ザ・イヤー」を受賞

「未来をつくる若者オブ・ザ・イヤー」とは、地域や社会の輝く未来に向けて行った社会貢献活動において、顕著な功績のあった若者が中心となる団体を顕彰し、もって、子供・若者の健やかな成長に資する事を目的に表彰を行っている内閣府の事業です。

表彰式は、11月21日（水）東京都千代田区永田町の中央合同庁舎内閣府講堂にて行われました。

本校家庭クラブは平成 24 年より被災地支援と防災啓発活動に取り組んでいます。

東日本大震災をきっかけに、遠く離れた徳島で高校生の自分たちに何ができるのか、震災をただの記憶で終わらせるのではなく、教訓として生かすことはできないかと考えました。そこで“ACTION!今、私たちにできること”を合い言葉に、「物づくり」による被災地支援活動と避難所運営という共助の担い手として自分たちにできることを「考え」「行動し」「発信する」防災啓発活動に取り組んできました。このような名誉ある賞をいただき、驚きとともに感激しています。これらの活動を今後もより発展させたいと考えています。



### ☆全国高校生料理コンクールで学校賞を受賞！

毎年、1 学年が取り組んでいる料理レシピコンクールで本校が学校賞を受賞しました。本年度は全国の高校 266 校から 7,149 点の応募がありました。この賞は全国で 10 校のみが選ばれる賞で、本校のこれまでの取り組みが評価され、賞状と盾をいただきました。



### ☆イオン「ECO-1 グランプリ」中四国タウンミーティングに参加

8月16日(木)岡山県でイオン「ECO-1 グランプリ」中四国タウンミーティングが開催されました。昨年度の「ECO-1 グランプリ」で上位7校に選ばれ奨励賞をいただいた本校も招待され、1学年生2名の生徒が参加しました。午前中は各校の取り組みについて発表があり、午後からは研究協議を行いました。他校の取り組みを知ることができた、貴重な体験となりました。



## ☆西日本豪雨の被災地へ災害ボランティア

岡山県真備町は7月に発生した西日本豪雨の被災地です。堤防が決壊し、町の半分が水につき、溺死された方は55人にのぼります。真備町の一番大きな避難所である岡田小学校に本校生2名が災害ボランティアとして向かいました。

災害から2か月経過したとはいえ、JRは完全復旧しているわけではなく、岡山駅から復旧している駅までJRで、駅からはタクシーで向かいました。使えなくなった家財道具など災害ゴミが大きな問題となっていることが大きく報道されていましたが、災害ゴミはもう撤去されており、町はきれいな状況です。ただ何やら雰囲気違和感が…。災害ゴミとして1階部分の家財道具はすべて撤去されているため、店舗も家も1階部分が全て空っぽの状態なのです。人や生活の営みが全く感じられない…そんな違和感でした。

真備町の避難所である岡田小学校は少し高台にあるため、水による被害がなく、当初300名の被災者が集まったそうです。私たちが伺ったときは体育館に約150名の被災者が生活しておられるとのことでした。全国各地からこられたボランティアの方々がてきばきと活動しておられ、運動場にはられたテントでは、温かい食べ物を提供しておられました。

昼間は被災した自宅の整理に行っている方が多く、体育館に残っておられる方はあまりいませんでしたが、私たちも被災者の方々とお話をさせていただきました。

本校では東日本大震災の被災地支援活動として、エコたわしの「物づくり」による取り組みを継続していますが、東日本大震災に限定せず、最近の災害にも目を向けようと考え、被災者の方々に本校の取り組みについてお話をさせていただきました。数名の方にご賛同いただき、編み針と毛糸をお渡しすることができました。また、体育館に並べられた段ボール製簡易ベットや被災者のために用意された冷蔵庫や洗濯機、シャワールーム、洗濯干し場などを見せていただきました。災害時には本校も緊急避難所になります。多くの方々が来られたとき、私たち高校生に何ができるか、何を用意しておくべきなのか考えておく

ことが大切だと思いました。



## ☆「防災士資格」を6名が取得！

徳島県教育委員会の「防災士支援育成事業」に本校生6名（3学年2名、2学年2名、1学年2名）が参加し、二日間に渡る講座を受講、最終日の試験に見事合格し、防災士資格を取得しました。今後、学校や地域の防災リーダーとして活動します。

## 平成 29 年度トピックス

### ☆平成 29 年 12 月 9 日:第6回イオン ECO-1 グランプリ最終審査会で「奨励賞」を受賞



全国の高校生が取り組むエコ活動を顕彰する「第6回イオン ECO-1 グランプリ」で108件の応募の中、本校学校家庭クラブが全国上位7校に選ばれました。10月に書類による第一次審査を経て、11月にはプレゼンテーションなど詳細な資料による第二次審査を通過し、12月9日東京ビックサイトで最終審査会に臨みました。

本校は6年前から続けているエコタワシによる被災地支援活動でエントリーしました。遠く離れた被災地と地元徳島を結ぶ活動のみならず、身近な環境保全に取り組もうと全校生徒が取り組んでいるエコタワシプロジェクトについての発表を行いました。作家で探検家の C・W・ニコル氏や女優の南沢奈央氏ら審査員に向けて5分間のプレゼンテーションと10分間の質疑応答を行ない、「奨励賞」をいただくことができました。また、全国の高校生の先進の取り組みを聞く、貴重な体験となりました。

## ☆平成 29 年8月1日:知事表彰を受賞



本校家庭クラブ活動のこれまでの取り組みが「地域に根ざした善行活動」と評価され、「知事表彰」を受けました。

8月1日(火)第40回「防ごう! 少年非行」県民総ぐるみ運動推進大会(とくぎんトモニプラザ)において表彰式が行われました。

## ☆平成 29 年 4 月 13 日 & 10 月 31 日:阿南工業高校との交流



本年度は、「AWA WA no WA つながるプロジェクト」と題して、これまで取り組んできた被災地支援と防災啓発活動をより地域へと広げたいと考えています。

本校生が地域に出向いたり、交流することで、たくさんの人々と「防災」というキーワードで「つながる」ことを目的としています。

4月13日(木)14:30~16:30 阿南工業高校において第1回交流会を実施しました。本校2学年4名が参加し、阿南工業生と「非常時のトイレ問題」について話し合いました。

本校のこれまで5年間の取り組みの中で生まれたオリジナル防災グッズの「組立式簡易トイレ」や「携帯 MY トイレ」を紹介し、非常時のトイレ問題において私たちにできることはないか、また「マンホールトイレ」の可能性について話し合いました。(マンホールトイレとは、非常時にマンホールの上に置いて使うトイレです。)

10月31日は防災教育ワークショップを終日実施しています。このワークショップの最後に阿南工業高校生3名が来校し、第二回の交流会を行いました。工業高校では「物づくり」の専門的な知識と技術を学んでいます。その専門性を生かしてマンホールトイレに取り組み、マンホールトイレ・テント一式を本校にプレゼントして下さいました。本校からはオリジナル簡易トイレ1セットと携帯トイレ80パックを贈りました。今後も非常時のトイレ問題について両校で取り組む予定です。

## ☆平成 29 年6月27日:異世代間交流—保育所で防災教室—



1学年生は毎年保育体験学習(6月)を実施しています。本年度、3学年生が保育所の園児を対象に防災教室を実施しました。地震が起きたらどう行動するか考えてもらい、頭を守るポーズを身に付けるためにダンゴムシ体操を活用しました。最後はみんなで一緒にダンゴムシ体操を踊りました。

## ☆平成 29 年 4 月 30 日:PTA 総会で防災啓発活動

PTA 総会で本校家庭クラブ員が防災啓発活動を行いました。非常時のトイレ問題についてプレゼンした後、本校生が製作した「携帯 MY トイレ」を配布しました。

## ☆平成 29 年1月7日:平成 28 年度ぼうさい甲子園にて「奨励賞」を受賞



学校や地域が取り組む優れた防災教育を顕彰する今年度の「ぼうさい甲子園」の高校生部門において、本校家庭クラブが奨励賞(全国3位)を受賞し、1月8日(日)兵庫県公館にて表彰式が行われました。

# ACTIO

## 今、私たちにできること

徳島県立阿波高等学校 家庭クラブ

家庭クラブは、家庭科を学ぶ生徒がクラブ員となり、家庭科の学習を生かして身近な生活の中に課題を見つけ、解決方法を探り、地域社会と連携して行う実践活動です。

東日本大震災をきっかけに、遠く離れた徳島で高校生の私達に何ができるのか、震災をただの記憶で終わらせるのではなく、教訓として生かすことはできないかと考えました。そこで、私たち阿波高家庭クラブは“Action! 今、私たちにできること”を合い言葉に、平成24年度より被災地支援活動と防災啓発活動に取り組んでいます。

### 被災地支援活動

アクリル毛糸で作ったタワシは微細構造のため洗剤が不要となり、洗剤の界面活性剤に含まれる窒素やリンによる河川の富栄養化を防ぐことができる、人と環境にやさしいエコロジーグッズです。

被災地で女性達に仕事がないという現状と、編み物で被災地の女性を応援しようというプロジェクト（RQ被災地女性支援センター）があることを知り、被災地支援と環境啓発を兼ねた支援活動はできないかと考え、被災地の方々を紹介していただきました。



被災地の方々と話し合いを重ね、寄付という形ではなく仕事の対価として扱ってほしいとの要望を受け、製品を一ついくらかという工賃として支払う「物づくり」を通した支援を行うことにしました。平成24年は、南三陸町歌津 平成の森仮設住宅の方々、平成25年は気仙沼市階上中学校仮設住宅の女性達、平成26～29年は気仙沼市階上地区の方々と交流しました。被災地の方々が製作して下さったECOたわしは、本校生がパッケージを作り、包装し、文化祭でたくさんの方々にご購入いただきました。

### 防災啓発活動

災害時に高校生は共助の大きな担い手となります。私たち高校生に何ができるでしょうか。私たちは考えました。避難生活は身体的にも精神的にも大きな負担であり、「震災関連死」で亡くなる方が増えています。災害で助かった命を避難所で落とす悲劇が起きないように、備えておける物はないかと考え、高校生の私達にできることとしてオリジナル防災グッズの開発と地域への発信に取り組むことにしました。自分達にできることを「考え」「行動し」「地域に発信する」…これが今、私たちにできることです！

## オリジナル防災グッズ 第1弾

### 「組立型簡易トイレ」の開発と地域への発信



災害時にライフラインは寸断されます。飲み水が優先され、生活水までは確保できずトイレは使えなくなります。過去の震災では、水分摂取をえたために多くの避難者がエコノミークラス症(静脈血栓塞栓症)を発症したことが指摘されています。

そこで地域住民の健康を守るため、学校(避難所)に備蓄できる簡易トイレを開発したいと考えました。地元企業にご協力をいただき、『AWA wa no WA シリーズ』第一弾として簡易トイレを地域に発信することができました。

商品名は『AWA wa no WA なんて簡単トイレ』。特徴は丈夫でたった3工程で簡単に組み立てられることです。そして阿波高と地域の方々の輪(WA)が一層広がるようにと名付けました。(地元企業で販売中)

## オリジナル防災グッズ 第2弾

### 「家具固定具」の開発と家庭・地域への普及に向けた啓発

私たちは過去の災害を見直しました。阪神・淡路大震災で亡くなった方の約8割は窒息死や圧死であり、その約9割にあたる方は地震発生から15分以内に死亡していたと言われています。つまり、事前の備えが大きく影響し、家屋の倒壊や落下物に対しての安全対策を講じておけばケガや死亡の危険率は低くなり、家族の命を守ることができるのです。そこで二重の厚み素材の特製段ボールを地元企業に製作していただき、天井との隙間を埋める段ボール板を3枚セットにした家具固定用具を作りました。徳島県立工業技術センターで性能検査をしてもらいました。圧縮強度をはかる機械で、4.69KN(キロニュートン)という結果でした。1KN=102kgfなので、 $4.69 \times 102 = 478.38\text{kg}$ 、約500kgの加重に耐えることが証明されました。PTA 総会や文化祭でプレゼンテーションを行い、家庭・地域に向けて発信、普及に努めました。

## オリジナル防災グッズ 第3弾

### 「携帯myトイレ」の製作と地域への発信



震災関連死で亡くなる方に共通したキーワードは「水」です。私たちの身体の構成成分は約60%が水分であり、一日に約2Lの水を摂取することが必要です。けれど摂取するだけでなく、実は排泄することも健康上とても重要な事なのです。災害時のトイレ問題は、健康のみならず命にかかわる問題です。

トイレを我慢することのないように、断水時でも使えるトイレが必要です。そこで高分子吸収体を使った「携帯myトイレ」を製作しました。PTA 総会では参加した保護者の方へ(200個)、文化祭では来校された地域住民の方々へ(400個)無料で配布しました。災害時のトイレ問題について考えるきっかけとなればと思っています。